

DENIKA

2011年度 決算説明会



2012年5月9日

高い技術力で「資源」から「価値あるモノ」を生み出す企業

経営概況説明 資料目次

1. 2011年度 決算概要

- ① 前年同期比 P. 1
- ② 増減要因 P. 2
- ③ セグメント別概況 P. 3

2. 2012年度 業績予想

- ① 前提条件等 P. 4
- ② 前年同期比 P. 5
- ③ 増減要因 P. 6
- ④ セグメント別概況 P. 7

3. 今後の成長戦略

- ① 経営環境の変化 P. 8
- ② 具体的戦略 P. 9

4. 資本政策 P.10

5. 最後に P.11

業績の予想の適切な利用に関する説明

1. 2011年度 決算概要 ① (前年同期比)

単位:億円

	2011年度	2010年度	増減率	主な要因
				(増減額)
売上高	3,647	3,579	1.9%	有機系素材 ▲ 12
				無機系素材 9
(海外売上高割合)	(27.7%)	(27.4%)	↗	電子材料 ▲ 39
				機能・加工製品 5
				その他・消去 ▲ 2
営業利益	207	246	▲ 15.9%	← ▲ 39
(営業利益率)	(5.7%)	(6.9%)	↘	持分法投資利益減 他 ▲ 2
経常利益	190	231	▲ 17.6%	← ▲ 41
				特別損失負担減 4
				法人税等 (税効果調整後) 6
当期純利益	113	144	▲ 21.1%	← ▲ 30

1. 2011年度 決算概要 ② (増減要因)

単位:億円

(前年同期比)

売上高 **3,647** (+ 68)

①数量差:機能・加工分野で増加したがトータルでは減少 (▲ 54)

②価格差:有機系原燃料高騰 → 製品価格に転嫁 (+ 122)

営業利益 **207** (▲ 39)

①数量影響:売上高数量差 ▲ 54 × 平均限界利益率 22% (▲ 12)

②交易条件悪化:原燃料高騰 ▲138 > 製品価格+122 (▲ 16)

③負担増:償却費・修繕費・人件費など (▲ 12)

④在庫の影響 [2010年度 (+) 30 → 2011年度 (+)35] 他 (+ 1)

1. 2011年度 決算概要 ③ (セグメント別概況)

単位:億円

売上高	2011年度	2010年度	増減	販売価格差	数量差	
有機系素材事業	1,636	1,564	72	128	▲ 56	
無機系素材事業	486	486	0	5	▲ 5	
電子材料事業	434	469	▲ 36	▲ 11	▲ 25	
機能・加工製品事業	761	730	31	▲ 0	31	
その他事業	331	330	0	0	0	
合計	3,647	3,579	68	122	▲ 54	
営業利益	2011年度	2010年度	増減	販売価格差	数量差	コスト差等
有機系素材事業	37	50	▲ 12	128	▲ 16	▲ 125
無機系素材事業	39	30	9	5	▲ 3	6
電子材料事業	46	85	▲ 39	▲ 11	▲ 13	▲ 14
機能・加工製品事業	77	72	5	▲ 0	20	▲ 15
その他事業	8	9	▲ 1	0	0	▲ 1
消去差	▲ 0	1	▲ 1	0	0	▲ 1
合計	207	246	▲ 39	122	▲ 12	▲ 150

2. 2012年度 業績予想 ① (前提条件等)

単位:億円

前提条件	2012年度 予想	2011年度 実績	2010年度 実績	2012年度 第2四半期 予想	2011年度 第2四半期 実績		
為替レート [円/\$]	80.0	79.1	85.7	80.0	79.8		
国産ナフサ [円/Kg]	62,500	55,000	47,450	62,500	57,000		
参考数値	2012年度 予想	2011年度 実績	増減	2012度 第2四半期 予想	2010年度 第2四半期 実績	増	減
設備投資額	250	229	21	120	105	15	
減価償却費	220	232	△ 12	110	114	△ 4	
研究開発費	106	106	0	53	53	0	
有利子負債残高	1,140	1,180	△ 40	1,170	1,159	11	

2. 2012年度 業績予想 ② (前年同期比)

単位:億円

回復途上の前半は前年同期の水準に及ばないが、後半にかけての伸長で、電子材料主力製品やクロロプレンゴムなどは従来のピークを超える出荷水準を見込む。

	2012年度 予 想			2011年度 実 績		
		4~9月	10~3月		4~9月	10~3月
売上高	3,760	1,780	1,980	3,647	1,834	1,813
営業利益	250	105	145	207	118	89
(営業利益率)	(6.6%)	(5.9%)	(7.3%)	(5.7%)	(6.4%)	(4.9%)
経常利益	230	100	130	190	108	82
当期純利益	135	60	75	113	70	43

2. 2012年度 業績予想 ③ (増減要因)

単位:億円

	(前年度比)
売上高	3,760 (+113)
①数量差:スチレンモノマー1基体制移行による売上減	(▲200)
クロブレン・電材・高分子ヒアルロン酸製剤等伸長	(+247)
	<hr/>
	(+47)
②価格差:原燃料高騰 → 製品価格に転嫁(石化系製品など)	(+66)
営業利益	250 (+43)
①数量効果:SM以外数量差 247 × 平均限界利益率 30%	(+74)
②交易条件:改善(クロブレンなど) > 悪化(石化系タイムラグ)	(+13)
③負担増:需要増対応に伴う人件費・補材・修繕費など	(▲14)
④在庫の影響 [2011年度 (+) 35 → 2012年度 (+) 5] その他	(▲30)

2. 2012年度 業績予想 ④ (セグメント別概況)

単位:億円

売上高	2012年度	2011年度	増減	販売価格差		数量差		
				販売価格差	数量差	販売価格差	数量差	コスト差等
有機系素材事業	1,541	1,636	▲95	74	▲169			
無機系素材事業	486	486	0	6	▲6			
電子材料事業	510	434	76	▲11	87			
機能・加工製品事業	803	761	42	▲3	45			
その他事業	420	331	89	—	89			
合計	3,760	3,647	113	66	47			
営業利益	2012年度	2011年度	増減	販売価格差		数量差		コスト差等
				販売価格差	数量差	販売価格差	数量差	コスト差等
有機系素材事業	44	37	7	74	0	▲67		
無機系素材事業	39	39	0	6	▲2	▲4		
電子材料事業	65	46	19	▲11	42	▲12		
機能・加工製品事業	92	77	15	▲3	34	▲16		
その他事業	10	8	2	0	0	1		
消去差	—	▲0	0	0	0	1		
合計	250	207	43	66	74	▲97		

3. 今後の成長戦略 ①（経営環境の変化）

経営環境

世界経済：

引き続き欧州債務問題などの懸念材料は引き続き残り、先行きは依然不透明であるが、新興国需要にも牽引され回復軌道を辿る。

需要構造の変化：

情報携帯端末の普及等により電子部品の小型・高性能化が加速。薄型TV等家電製品は低価格品志向が進む。

原子力発電依存の見直しと再生可能エネルギー分野の伸長。

当社中期経営計画「DENKA100」

カーバイドやスチレンチェーンの収益を基礎として
電子材料や機能・加工製品などの
高収益製品を「成長分野」と「成長地域」で伸ばす

3. 今後の成長戦略 ② (具体的戦略)

(1) 基盤事業の磐石化 (カーバイド&スチレンチェーン)

クロロプレン : 新規需要家への拡販が進む (蘇州研究拠点の効果)

米国の市場開拓も順調

トップメーカーとして収益確保を前提に事業運営を行なう

スチレン : 事業再構築で売上大幅減だが採算性向上

(2) 成長分野 (需要構造の変化に対して機敏に対応、他社提携も活用)

携帯端末等情報関連分野 : ガラス加工用接着剤

エネルギー・インフラ分野 : 二次電池材料・風力発電用 他

⇒ 当社コア技術の展開「機能性粉体」

(蛍光体・窒化珪素・窒化ほう素・球状アルミナ・窒化アルミ・アセチレンブラック)

(3) 成長地域 (アジアを中心とした海外展開の加速)

シンガポール : IPプラント稼動・合繊新工場建設・シリカフィラー増設

中国 : 特殊混和材・接着剤・食品包材・電子包材等の拡販

地域に密着した展開 : シンガポール・中国の研究開発拠点の積極活用

4. 資本政策

単位:億円

【主要財務指標】	2012年3月末	(2011年3月末)
総資産	4,026	(4,020)
有利子負債	1,180	(1,146)
純資産	1,727	(1,682)
自己資本比率	42. ³ %	(41. ² %)
D/Eレシオ	0.683	(0.681)

【株主還元推移】

	2006年 実績	2007年 実績	2008年度 実績	2009年度 実績	2010年度 実績	2011年度 実績
当期純利益	157	67	14	105	143	113
配当(円/株)	8.0	10.0	7.0	8.0	10.0	10.0
配当性向	25%	74%	243%	38%	34%	43%
自己株式取得			30			27

2012年度
予 想

135

10.0

36%

5. 最後に（DENKAの企業活動）

企業活動

事業活動

利益の追求

品質・安全・
環境・法令

従業員・株主・取引先・
地域などへの誠実な対応

100年にわたり築いた信頼を次の100年も継続していく

業績予想の適切な利用に関する説明

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に掲載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。